

北海道の国家公務員

官庁ガイド

2024-2025

The Guidebook of Government Offices

国家公務員試験に向けて
官庁を知るなら、
まずこの一冊！



 **人事院**
National Personnel Authority
北海道事務局

試験や採用についてのお問い合わせ

札幌市中央区大通西12丁目 札幌第3合同庁舎
人事院北海道事務局第二課 試験係/任用係

TEL. 011-241-1248



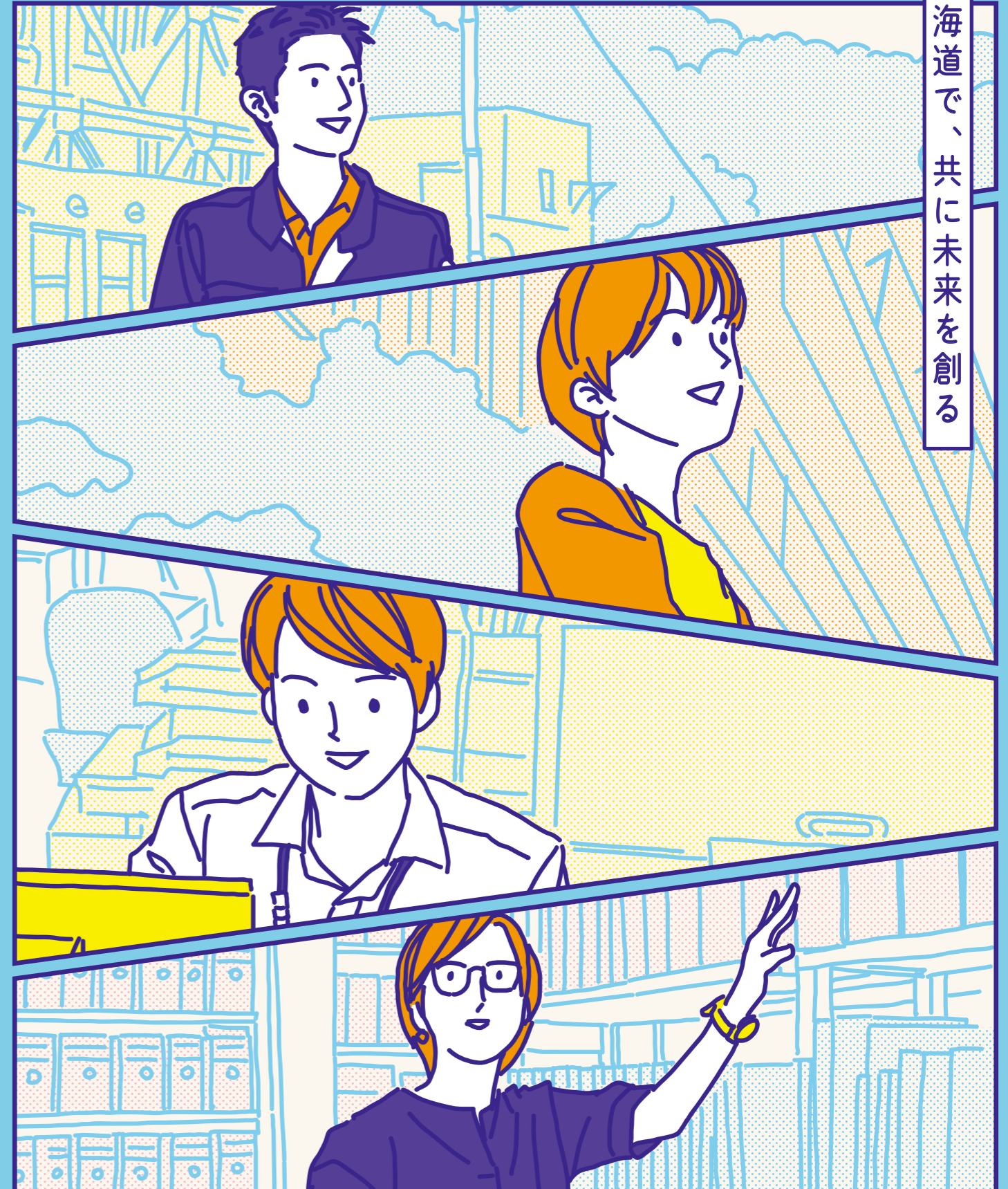
資源の保護と環境への配慮を考え、本紙には一部古紙を配合した再生紙、インクは植物油インキを使用しています。

北海道の国家公務員

官庁ガイド 2024-2025

The Guidebook of Government Offices

北海道で、共に未来を創る





札幌管区気象台

総務部業務課管理係
主任

採用年次：2015年度
採用区分：大卒行政

今の仕事に関心を持ったきっかけは
東日本大震災でした

志望動機について

東日本大震災をきっかけに、災害を起こす自然現象に関わる仕事に興味を持ち、そのような仕事ができる機関はどこかと考えたときに真っ先に浮かんだのが気象台でした。気象台は技術系区分と行政系区分の採用があり、天気予報や火山監視は主に技術系区分採用の職員が従事することは知っていましたが、行政系区分採用でも気象台職員の一員とし



て気象業務に貢献できればと思い、気象台を志望しました。

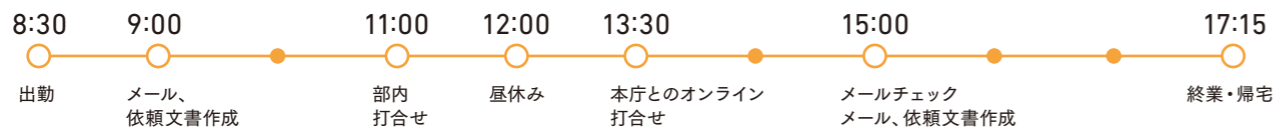
本府省での経験について

仕事を続けているうちに本府省で勤務してみたいという気持ちが高まり、希望が通って気象庁本庁及び国交省で勤務する機会を得ました。気象庁本庁では、気象庁内で開催される様々な会議の運営担当となり、気象庁本庁内の各部署や全国の気象台の担当者と連絡を取り合いながら、資料の取りまとめやオンライン会議の準備を行いました。その後出向した国交省では国会連絡室という部署に配属になり、国会議員や政党本部からの様々な依頼を国交省側の窓口として調整する業務を行いました。

地方機関の魅力とこれから
取り組みたいこと

私が考える地方機関の魅力は、自治体や他の地方機関と密接に連携しながら業務を行っていただける点です。気象庁の全国的な取り組みについて、自治体や他の地方機関の担当者の意見も伺いながら、地域特性に合わせて具体化していただけることにやりがいを感じています。また、自治体との話し合いの場面では、本府省での勤務で得た気象庁や他府省の取り組みに関する知識が生かされる場面もあります。これからも広い視野を持って様々な関係者との対話を重ねながら、防災気象情報の普及啓発に尽力していきたいと考えています。

ある日の私



※年次休暇やゆう活を使い、エスコンフィールドに野球を観に行くこともある



札幌法務局

訟務部租税訟務部門
上席訟務官

採用年次：1992年度
採用区分：III種(現在の高卒事務)

分からないことがあればすぐに聞けるような、
風通しのよい職場です

今の仕事について

訟務部では、国を当事者とする訴訟等について、国の立場から裁判所に対して申立てや主張・立証などの活動に係る事務を行っています。その中で、私は、上席訟務官として、部下職員である訟務官・事務官のマネジメントや育成を行うとともに、裁判所への提出書面の作成、期日出廷等の業務に携わっています。

職場の雰囲気や働き方について
考えること

訟務部は、20数名の職員中、若手職員が半数を占めており、仕事で分からないことがあればすぐに聞けるような、とても風通しのよい活気

ある職場です。また、裁判所への対応等により多忙な期間もありますが、一方でスケジュール管理もやりやすい業務なので、休暇も計画的に取得することができます。仕事のやりがいとしては、担当事件の書面等を期限までに作成し、裁判所に提出した時に、一仕事終えたという充実感を得られることです。そのためにはチームワークがとても重要であるので、上司の指示を仰ぎつつ、他の職員とチームが一丸となってお互いコミュニケーションを取ることが必要です。このように訟務部は、一つの目標に向かうことで、職員同士の一体感も得られる良い職場だと思います。

志望者へのメッセージ

訟務部は、なんとと言っても、法曹資格者である上司から法律的な思考に係る指導を直接

受けられるという貴重な経験を積むことができる職場です。そのため、法務局の他の部署よりも人気が高く、訟務部への配置を希望する若手職員も多いです。このような職場ですので、実際に、上司の指導を受けた若手職員が、メキメキとスキルアップしている姿は頼もしい限りです。法務局の訟務部で、訟務事務について様々な経験をし、勉強してみたいという思いを持っている方でしたら、仕事へのやりがいや充実感を得られること間違いなしだと思います。



ある日の私

